

いのちとくらしをまもる  
防災減災



令和7年9月1日  
大気海洋部

## 2025年の梅雨入り・明け及び夏（6～8月）の記録的高温について

- ・2025年の梅雨入りは東日本・西日本でかなり早く、梅雨明けは東北地方を除く地域でかなり早く、記録的に早い地域もありました。
- ・2025年夏の日本の平均気温は、これまでの記録を大幅に上回り、統計開始（1898年）以降で最も高くなりました。

2025年の春から夏にかけての天候経過を総合的に検討して各地方の梅雨入り、梅雨明けを確定しました。季節の進行がかなり早く、東北地方を除き5月に梅雨入り、6月に梅雨明けとなり、統計開始（1951年）以降で最も早い記録となった地域もありました（表1）。

また、6月以降、本州付近への太平洋高気圧の張り出しが強く、晴れて高温になった日が多かったこと等により、日本の夏の平均気温は、基準値からの偏差<sup>1</sup>が+2.36℃となり、これまでの記録であった2024・2023年の+1.76℃を大幅に上回り、統計を開始した1898年以降の夏として、最も高い記録を更新しました（図1）。

※参考 日本の夏の平均気温が高かった年と基準値からの偏差

①2025年(+2.36℃)、②2024年・2023年(+1.76℃)、④2010年(+1.08℃)、⑤2022年 (+0.91℃)

夏の平均気温の地域平均平年差は北日本で+3.4℃、東日本で+2.3℃、西日本で+1.7℃で、いずれも統計を開始した1946年以降の夏として最も高くなりました（図2）。地点ごとに見ると、全国153の気象台等のうち132地点で平均気温が夏として最も高くなったほか（9地点のタイ記録を含む）、この夏に猛暑日を記録したアメダス地点数は積算で9385地点となり、統計の比較が可能な2010年以降で最も多くなりました（図3）。

こうした天候をもたらした要因については、9月5日に開催する異常気象分析検討会で分析を行い、見解をとりまとめる予定です。

### 【今後の見通し】

向こう2週間程度は東日本や西日本を中心に猛暑日となるところがあるなど厳しい暑さになる見込みです。その後10月にかけても全国的に平年より気温が高くなる見込みです。熱中症の危険性が高い状態が続きますので、気温の予報や熱中症警戒アラート等に注意して、適切な熱中症予防行動を取っていただくようお願いします。

<sup>1</sup> 1991～2020年の30年平均値を基準とする偏差で、1898年以降の全ての年について、同じ基準を用いて表している。

表1 各地方の梅雨入り・梅雨明け確定値と梅雨の時期の降水量の地域平均平年比

地方名	梅雨入り(注1)	平 年	梅雨明け(注1)	平 年	梅雨の時期の降水量の地域平均平年比(注2)
沖 縄	5月5日頃(-)	5月10日頃	<b>6月7日頃(-)*</b>	6月21日頃	99%(0)
奄 美	5月5日頃(-)	5月12日頃	<b>6月9日頃(-)*</b>	6月29日頃	59%(-)*
九州南部	5月16日頃(-)*	5月30日頃	6月27日頃(-)*	7月15日頃	73%(-)
九州北部	5月16日頃(-)*	6月4日頃	<b>6月27日頃(-)*</b>	7月19日頃	68%(-)
四 国	5月17日頃(-)*	6月5日頃	<b>6月27日頃(-)*</b>	7月17日頃	74%(-)
中 国	5月16日頃(-)*	6月6日頃	<b>6月27日頃(-)*</b>	7月19日頃	54%(-)*
近 畿	<b>5月17日頃(-)*</b>	6月6日頃	<b>6月27日頃(-)*</b>	7月19日頃	84%(0)
東 海	5月17日頃(-)*	6月6日頃	6月27日頃(-)*	7月19日頃	89%(0)
関東甲信	5月22日頃(-)*	6月7日頃	<b>6月28日頃(-)*</b>	7月19日頃	73%(-)
北 陸	<b>5月22日頃(-)*</b>	6月11日頃	<b>6月29日頃(-)*</b>	7月23日頃	50%(-)*
東北南部	6月23日頃(+)*	6月12日頃	7月18日頃(-)	7月24日頃	37%(-)*
東北北部	6月23日頃(+)	6月15日頃	7月18日頃(-)	7月28日頃	49%(-)*

記号の意味は、(+)\*:かなり遅い(かなり多い)、(+):遅い(多い)、(0):平年並、(-):早い(少ない)、(-)\*:かなり早い(かなり少ない)、の階級区分を表す。

(注1) 梅雨入り・梅雨明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「〇〇日頃」と表現した。1951年以降で最も早い記録は**太字**で表している(タイ記録を含む)。

(注2) 全国153の気象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期(6~7月、沖縄と奄美は5~6月)の降水量を地域平均平年比で示した。

梅雨入りについて、速報値との差が特に大きかったのは、九州北部が23日、中国が24日、近畿が23日、東海が23日、それぞれ確定値の方が早かった。

梅雨明けについて、速報値との差が特に大きかったのは、関東甲信が20日、北陸が19日、それぞれ確定値の方が早かった。

表2 梅雨入り・梅雨明けの速報値

地方	梅雨入り 時期	平年の時期	梅雨明け 時期	平年の時期
沖縄	5月22日頃	5月10日頃	6月8日頃	6月21日頃
奄美	5月19日頃	5月12日頃	6月19日頃	6月29日頃
九州南部	5月16日頃	5月30日頃	6月27日頃	7月15日頃
九州北部	6月8日頃	6月4日頃	6月27日頃	7月19日頃
四国	6月8日頃	6月5日頃	6月27日頃	7月17日頃
中国	6月9日頃	6月6日頃	6月27日頃	7月19日頃
近畿	6月9日頃	6月6日頃	6月27日頃	7月19日頃
東海	6月9日頃	6月6日頃	7月4日頃	7月19日頃
関東甲信	6月10日頃	6月7日頃	7月18日頃	7月19日頃
北陸	6月10日頃	6月11日頃	7月18日頃	7月23日頃
東北南部	6月14日頃	6月12日頃	7月18日頃	7月24日頃
東北北部	6月14日頃	6月15日頃	7月19日頃	7月28日頃

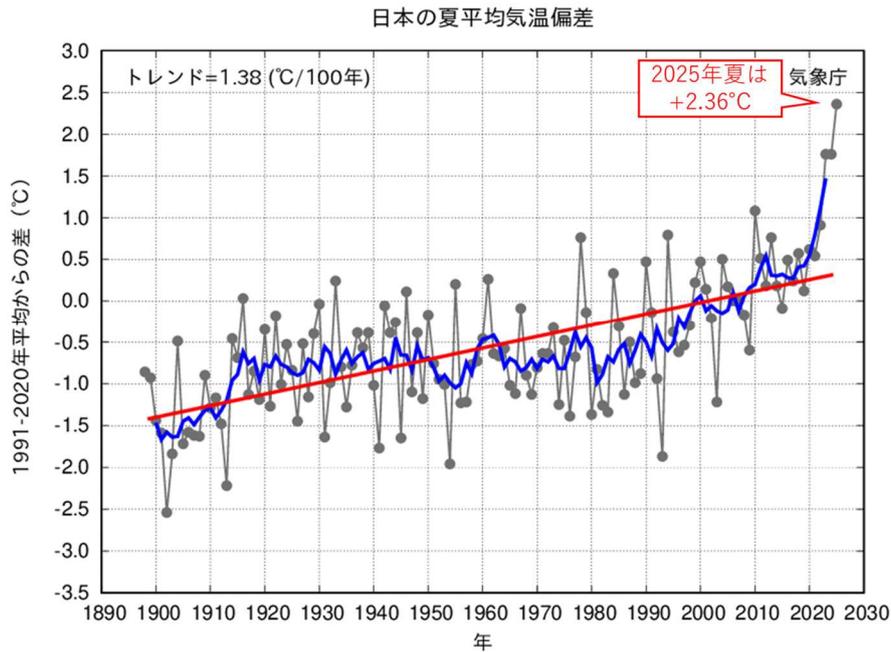


図1 日本の夏平均気温偏差の長期変化

1991～2020年の30年平均値との差。都市化による影響が比較的小さく、長期間の観測が行われている地点から、地域的に偏りなく分布するように選定した15地点(※)の気象台等の観測値を用いた統計。

※ 網走、根室、寿都、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島

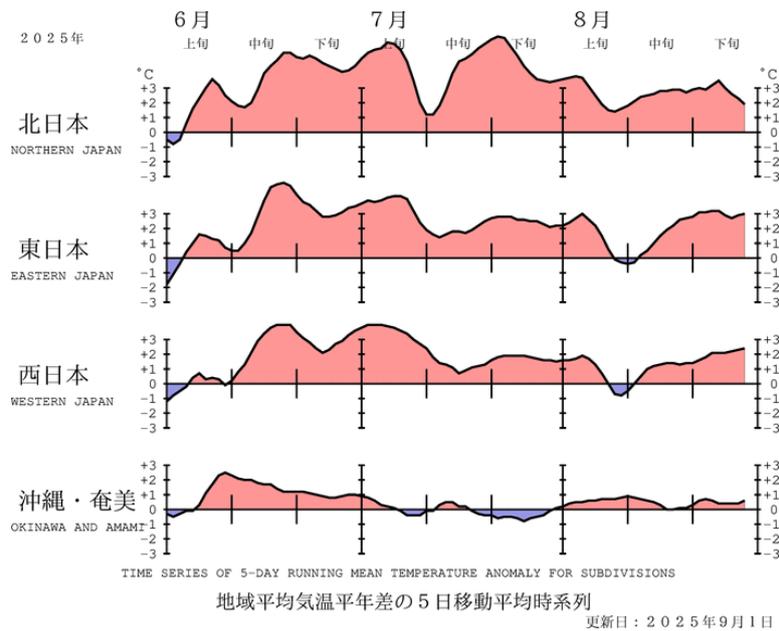


図2 地域平均気温平年差の経過(5日移動平均)

1991～2020年の30年平均値との差。全国153の気象台等による観測値のうち、三宅島、八丈島、父島および南大東島を除いた149地点の観測値を用いる。

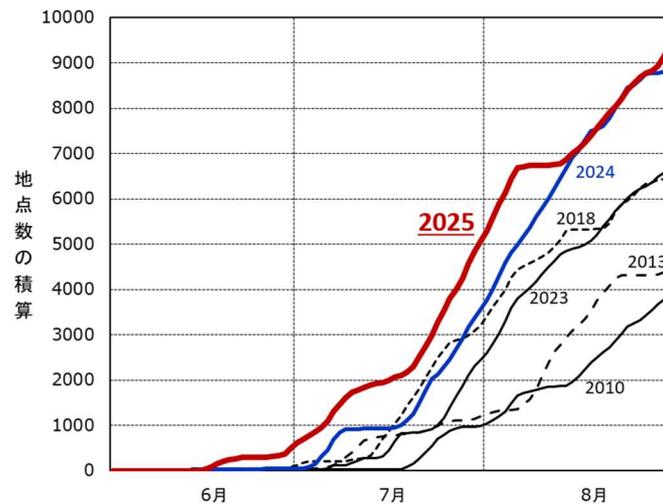


図3 6月1日～8月31日の猛暑日地点数の積算

主な高温年の6月1日～8月31日の積算の推移を示す。全国のアメダス地点による観測値を用いる。主な高温年について4月1日時点のアメダス地点数は、2010年が919地点、2013年と2018年が927地点、2023年が915地点、2024年と2025年が914地点。

<関連資料>

夏の天候と今後の見通し等について、より詳細な資料をご利用いただけます。

- ・夏の天候

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/seasonal/202508/202508s.html>

- ・日本の夏平均気温偏差の長期変化傾向

[https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/sum\\_jpn.html](https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/sum_jpn.html)

- ・2週間気温予報（毎日14:30発表）

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/>

- ・1か月予報（毎週木曜日14:30発表）

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010000&term=P1M>

- ・環境省熱中症予防サイト

<https://www.wbgt.env.go.jp/>

問合せ先：

（日本の天候について）

大気海洋部気候情報課 異常気象情報センター 及川

電話：03-6758-3900（内線4548）

（各地の観測データや統計について）

大気海洋部観測整備計画課 辻

電話：03-6758-3900（内線4278）